

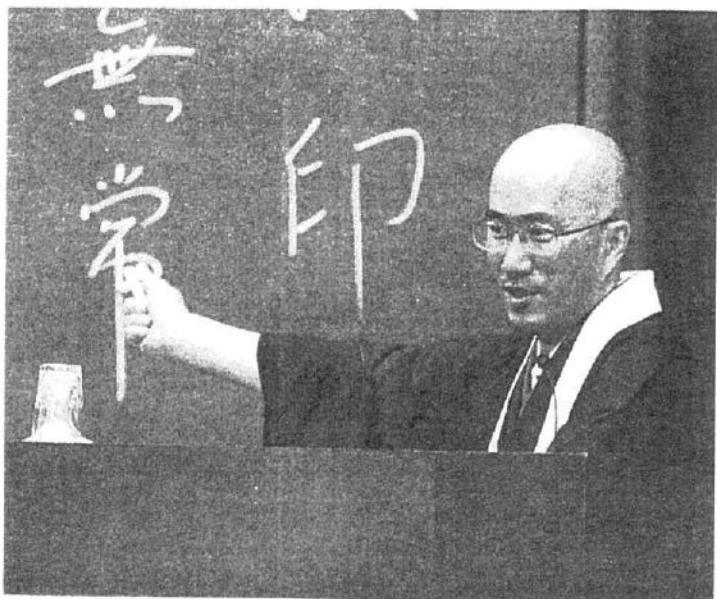
おかげさん



真宗大谷派
高徳寺通信



(1) 釋迦如來坐像
(ガンダーラ 2~3世紀)



佐野明弘先生
さのあきひろせんせい
加賀光闇坊住持
かがこうさんぼうじゅし

「人間の救い」

高徳寺 報恩講

法話 スペシャル

2012.10.13

にひげん

人間の救い

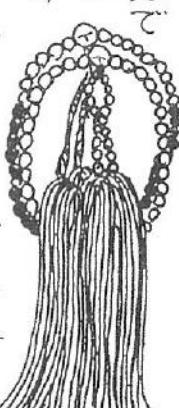
こんばんは、ようこそおいでくださいました。今日は人間の救いという講題でお話をさせていただきますけれども、なぜ念佛、南無阿弥陀仏なのかってことは追いつかなくて、必ずくるかと思ります。この人間の救いと、う言葉はですね、実際は私たちは、人間であることを救われたらどうですかね。自分が人間であると、うことを救ってくれと、う感覺は無いでないですかね。ですから、う人間の救いって言って、人間に生まれてしまつた、どうしたらいがんやつて言って笑ひそう、う人はあまりいがんでですね。自分はどうですかね。ですから、う人間の救いって言って、その本質がなんだと、本質と、うふだんが、身边に感じてるのは何かといふと、"私の救い"の問題なんではないですかね。人間の救いではなくて、私の救い。

そうすると、ちょっと身近に感じるんではなかアと感じます。で、この私と、うものを感覚して、いるものにとって、何が一番面倒なことかと言つと、何よりもとにかくこの私といつもののが一番手に負えなんですね。この私と、うものが、いろいろな心を起こしておりますけれども、この私の心が、どうものど、うやつてみてもなんかこう、おさえきれないと言いますか、受け止めきれないと言いますか、いつも迷いが起つたり、寂しさが起つたり、恨みや怒りが起つたり、そうやってじきの中が騒がしくんできすね。だから安らかであります。穏やかな満ち足りた自分でありたいと、う思つて、訳です。ですから人間であるといふことを問題にして、なんですね、私たちは、人間に生まれたのが問題な人りますか？

人間に生まれてしまつた、どうしたらいがんやつて言って笑ひそう、う人はあまりいがんでですね。自分はどうですかね。ですから、う人間の救いって言って、その本質がなんだと、本質と、うふだんが、身边に感じてるのは何かといふと、"私の救い"の問題なんではないですかね。人間の救いではなくて、私の救い。

ぬ、まあ今も若いですけれども、と若い時にです、田代のことです。でもそういう風に一生を送ると、いふ人は、ひと握りもないですね。そうすると今度は自分のことのものを少しでもこう、安らかにならべようとして受けとめて、くつろいで、くつろが考えます。それにいろいろな考え方があるんですね。親鸞聖人は九十五種あると言つておられます。けれども、九十五種あると言つておられます。あるって、その中にもね、いろんな考え方がある中に、まあ一番有名なのは、『運命論』とか…。『運命論』といつぱり全部定まつた、いや、何が都合の悪いことが起こった時にですね、都合の悪いことが起つたことを…。例えば、小さな子供が亡くなってしまつぽんてこともあります。そうするとその悲しみをおさえるために、これは天命やつたらやと。生まれた時からそう、うつ定めやつたらやと、いづらう言ひ方ですね、悲しみをおさえよつとしたりします。あのキリスト教でも、どうこうことを言つたりするんですよ。ニューヨークへ行つてお葬式をしなければならぬことがある…。ニューヨークへ行つてお葬式をする時で(※)アレン・

ネルソンの小説のお葬式ですけれども、その向かいが感想を述べるんですけども、妹さんだったか娘さんだったかな…。その方がね、彼が今、亡くなつたことより一番良い時期に亡くなつたんで悲しむ必要はないんですねと言つています。なぜかと言つと、彼が亡くなつて、いたことは、神の意志によるんやと。神の意志に間違はないある筈ながら、彼は一番良い時期に死んだんや。だから悲しむ必要はないって、こう言われたんでね、ちょっとびっくりしました。ああ、こうやって悲しみをこうえらんだなあと田代にまたお話し。ひとつ宿命、神の意志といつぱり人間にとつて宿命に近い訳ですか…。その後、自宅へ戻つて、またお勧めをしたんだけれども、そのお勧めをしておられるのか…。その後、自宅へ戻つてしまつた。やっぱりお葉でおさえきれな、そういうのを感じました。だから『運命論』というの、仕方がなかつたんだっていう話です。運命だったって。



ます。あるいはもう一つ、現代で流行っている、などでも。プラスの方に考え方より、マイナスの方が流行ります。どうですか、それで皆「うまい」といってますかね？ だからつまらないと行かんのではないますか？ 第一、プラス思考をしようとした方がえ方がもうマイナスですかうむ、違いますか？ プラス思考でなければならぬ」とこいつがアイナスだと困りますからでしょ。マイナスをなんとかプラスにしたいと。だからそつとう形で私たちには、私とう意識を持つてからずと迷いの中を生きて来たらです。だからこの私といふものは生きてるようですけれど、今はいつも言つて申し訳ない、ついでいいのですけど、私、どうのばひどい意識。意識ですね。まだ意識ありますか？ 音さん。(大笑)ありますか。まだ意識ありますか？ 音さん。(大笑)ありますか。時間、どうしてくると困りますけどね…。音さんです。意識がある間は、「私は」っていふ、出ていくと困りますけどね…。音さんです。意識が無くなるとことは消えてしまつんですね。です



これが面白く言葉ですね。意識って、この言葉は意識不明とか言いますけれど、仏教語なんですね。もともと仏教の言葉ですね、「心」、「眼」、「耳」、「鼻」という感覺器官。これ感覺器官だって…。これがあると面白くて何回も言つてすけど、感覺器官の「つなぐです」。私、とこいつのものを感覺して見る感覺器官です。だから寝ている間は意識は無いんですね。こり「意」というものはあるけれど、「識」が無いんですね。識って、これは意がはだらくと識にならんです。なんか難しくなってきましたね。(笑)私達がまず全五識と言つて表に出している感覺器官が一つあります。ひとつ全部挙げられますか？ 何がありますか？ ひとつや二つや三つや四つや五つまで全部挙げられますか？ お、田とか耳とか… 口(聽衆)、鼻(聽衆)、歯(聽衆)…歯は感覺器官ですかね。(笑)歯も感覺しますね、痛くなったりしますもんね。肌(聽衆)肌ですね。それらを仏教では眼・耳・鼻・舌・身と言つてます。眼、とこいつのは目でしょ、「べーべー」とこいつのは「耳」。耳は鼻。そして舌・身。これらが感覺器官です。

も目を開けてみると見えませぬ。明るいのが嫌な時にアイマスクなんかしてゐる。あるいは目はあるけれどもだらうでない。目だけだらうてものを見る時には、眼識って、目だけだらうてますって、いつのが眼識って言つぶやか。目だけだらうている時は、色や形を見るので眼識、対象は色と…。色だけじゃなくてけどね。色形のことです。耳がはたからくと、聴。色・聴・香・身。身の場合は触れると書いて、暖かたり寒かったり、痒かたりですぬ。気持ち良い、柔らかたりぬ。こういう風に対象を感覚している時に識と二つ字を使います。「意」と二つのも六番目の意を感覚器官で「第六感」って言つたりします。



第六感覚ですね。その二つの…六根って言いますけど、聞ひたことありますか？山を登る時に「六根清浄」って言いますぬ。六根が清らかであればものを正しく見れるんだそうです。でも私たちの感覚器官は必ず煩惱よって汚されてるので、見たものをそのまま通りには見れなくて執着したり、嫌つたりするんですね。正しく見えないと云ふと、蛇じやなどを見ると、蛇じやないとどうかって、「う、どっかに染まっているものがあるので、長るものを見ると蛇に見えてしまつ。男性はぬ、女性を見ると、ぬ、雨の日と夕暮れに美人が多くなるんだそうです。(大笑) 美人が多くなるんですそ。きっと美人に逢はば、ひと田づつてしまつぐです。傘さしてよく見えないから…。よく見たらびっくりしたりしてぬ。(大笑) やっぱり、六根が清浄であればそんなことは起らぬんですね。第六番目の意って、うのがはたらく時に「意識」って言います。特にこの時に感覚するの、が「私」というものなんです。だから私は「私」と二つものを生きているようだけども、そういうやうで、もうと大きないのちのあり方の中、「私」を感覚して、るのが意識なんです。その方が道理に合っていると思ひませんか？「私が生き

てるんじゃないですか。」私が生きているにならうと
気絶したうもうになくなってしまつ。ところが
この意識が無い間も心臓を動かしたり、呼吸
をしたり、新陳代謝をしたりとする。そういう
個体を保たせていくつもつと深い生命意欲
がある訳ですよ。私たちの中に「私」の中で「私」
つかうものが目覚めてきて、それを感覚してい
るんですね。ところがこの「私」というものが目覚
めてくると、この「私」というものが厄介なんですね。
どうしたら良いのかが分からなくなるんですね。そして
この全部の六根というものは、基本的に一つの
原則をもってきます。それは、快。快の感覚
快感を原則にしていきます。だから目にも耳にも
香……(黒板)香って書いてあるからいいかも
しれないんですけど、臭いって書くと、だんだん嫌
な臭いとかね、ありますわ。そうすると心地良い
方を選ぼうとします。これは身体を守ろうと
する付いたりとも関係がある訳ですけれども。
心地良い方を選ぼうとするんですね。そうする
と嫌なものに出会へ苦しみを感じるようにな
ります。見たばかりのことで我遇うとやぱり嫌でも
うお。どうしてどうからこんな悲しいなどとうじが

んですね。そして「私」でいつもが何かしかりとした
自分でありたい。それが心地良い訳です。あ、だ
かに生きているは……と田中さんと田中さんと
すけど、なんのために生きているんだろうと田中さん
ことはありませんか? そういう時はたいて、苦
い時です。ふと苦しみがあるとな、なぜこんな苦
みをして生きなければならぬんやろ……と、う
田中さんます。みんなために生まれてきたのか? なぜ
生きねばならないのか? 死んではいけないのか?
もう終わりにしたいとかね。何度も思ひ出た
方、おられると思います。そうすると、そうこう答
えを、この意識の私は持てないんです。だから
自分で考へても分からぬんです。なぜ生ま
れてきたんだろう。なぜ生きね
ばならぬんだだろう……。で、その
中で、日々の中でそれでも少しでも
も満足する方向へ向かってね、今日
まで生きてきた。だから私たちは
根本的な問題はすでに意識が芽はえた時に根
本的な問題を抱えてるんです。決着がどーして
もつかない根本的な問題……どうして寂しいんや



起つてくるのか。どうか
ものを抱えてる訳です。
だから、うんな時代にあり



て、うんな形の社会の形態があります。その中で、
自分の役割をこなすことで自分を受けとあうと
する。それがまあ私たちの限界なんですね。とう
が社会そのものが崩れることがあります。例え
ばそれぞれ国つものが出来てですね、それぞれ
の国が覇権を争った国家主義の時代がありま
たね。植民地化をして。大戦までずっとそろそ
ろだ。第二次大戦が終わってそれぞれの国が独立し
ていく訳ですけれども。そういう国家とくものと人
間の生きるところを一つしたのが国家主義とい
うのですね。あるいは民族とくものと自分とを
一つにして、その民族を守つて。そういうことを中
心にしたのが民族主義で言います。そこへ私は〇〇
アイデンティティって書つたりしますけど、そつづき。
民族主義と。ところが、國家や民族とくよつむちの
が、この世の中で安定したり強力であれば、その自分の
価値觀もその中で保てるんです。ところが現代は、

国家がやらなければいけないのです。現代の世界を動かして
いるのは、経済です。国家そのものが経済の中に
巻き込まれておりますね。こんな大変な原発の
事故があつてもなぜまだ動かそうとしているのか
と言ふと、経済的理由ですね。経済がお金ば
ら世界規模で現在、国家というものを巻き込んで、資本主義とくものがね、世を覆っています。
そこで今まで三つしか言ってませんけど、国家主義、
とか民族主義、そういうものはまだ自己を保た
せる力があつたんです。國のために命を懸けると
かね。ところが経済、経済で命を懸けると言
うことは、実はないんです。命は奪われることはあ
つてもね。だからこの「私」つものを成り立たしめてい
くのに、資本主義とくものが、人間が発想して
創つた一つの主義体系ですけれども、貨幣経
済のですね、体系ですけれども、この貨幣経済と
いうものが、人間をすごく追ひ詰めてるというの
は、聞いたことがなりますかね?…。この辺は分か
らないんですけど…。何十年もこの地におられ
ますか? 私の地域は石川県で田舎なので

20年前に今利用している駅に降りた時に畠や田んぼがずーと駅前に広がって、向こうに白山連峰が綺麗に見えました。ところが、この20年の間に大型ショッピングセンターとモールのストアントでかい薬屋さんとでかい電機屋さんが出来たんですね。降りたところから景色が見えないくらい。回転寿司屋さんがつづつ。(笑) 駅前の通りですよ。何も無かった所が…。そしてワカレいかない所にでかいショッピングセンターが、こちらは平和堂、こちらはイオン…。そして昔からあるお店は、せんぶミヤタケが下りました。そしてそこから反対していた人もいるんですけど、反対しなかった人達はそのビルの中に入らせてもらつて、約束のある人達は、そこに入ったんだけれど、今まで通りやつてつけなくなっています。家賃といづれですがれ? テナント料? そのテナント料が高くてね、で、その人、だんだんやつてつけなくなっちゃって、やめちゃつたんですよ。やめたんだけど、借金があたらしくなったんですね。その店では、彼が働いてるのを見たんだけど、私の知り合の親なんですけども、へたへた遊びに来てた子供がいて、その親なんんですけど、カートを仕舞う役をしていた。もう、そんなんだか一時間、

600円とか700円いらしかったんだが、600円とかみるみるうちにぬ、まあ、昼間からお酒臭くてね、そこで死んでしまいました。自殺した訳じゃなくんですけど、それで近かったですね。家族が何と言つてもファーブとなつてしまつてね、それはやはり競争に負けたって言う…周りから見るとね。それが企業を、どういうものを徹底的に競争させます。そ資本主義経済というのは人と人を、企業と一円でも安く、そのためには人と人を、企業と企業を、どういうものを徹底的に競争させます。安いい賃金で人を働かせるんですね。この間、東京駅まで加賀から高速バスに乗って、東京で降ります。東北行きの電車に乗るまで一時間以上時間がかったので、待ち合室におひさぎがあったので、待ち合室におひさぎがすねヨレヨレのまゝ黒ボロボロの服を着たおじさんがだんだん近寄ってくるんですよ。この本堂よりもずっと広くて椅子がずらっと並んでる待ち合室で、ほほ8割以上の人気が携帯を手に何かやってる訳ですね。で、私は用が無かったのでやってたんですけど、そしたら、そのヨレヨレした人が、あちこちを見渡して、「ケツ！」

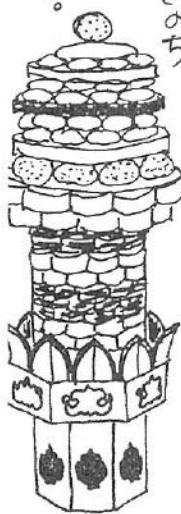
極を逆転する事が起つてゐるんだと云ふ。いろんな影響では、現代のこういう大気汚染の仕方や大気汚染によって起つてくる温暖化によつて、北極の氷がもの凄く減つて、いろいろな影響で、又、太陽のフレアの影響もあるのでしようけど、磁力線がこれ以上動いて回つたり、逆転したりすると地球の環境が非常に劇的に変わつて、氷河時代になつてみたり、いろんなね、サーベルタイガーやら、マハモスが滅んでいたような形のね、そんなことが、このまま行くと起つるんだそうです。今年に入つて北極の空の上にもオゾン層に穴が開いてしまつた。磁力線が無くなると一気にオゾン層もね、保護してたものが失われて、太陽線といつう宇宙線が降り注いで来ますと、皮膚ガンとなりります。もう南極の空にはでかい穴が開いてるんですよ。オゾン層の開いてるんじやなくて、人間が開けたんですね。大気汚染してそれが今年になつてから北極の空の上にも大きな穴が開いて、そして観測史上最少の氷の面積になつてしまつます。だから、いったい私たちほどここへ向かって行つたらいいや。これ以上経済を発展と云う。その場はいざよ。その場はいけど、地球もろとも滅びていくしかないのか、他の生命を巻き込んでね。今でも年間1500以上の種が絶滅しながら、こうして時代を経てゐる訳です。だからいつ私といつものが自分を受けとめようとしていたんだろう。あとどういうこと

いつも世界を開いてきたんです。人が、迷いの中に行ひの中には、こうした方がいいと思つてやつたことが、さうなづすに……ね。だから人間の田うする方向にどれだけ時代を進めていつても、実は一度もまだ人間が満足し救われたことが一度もないんです。常に新たな時代、新たな時代、その中でね、殺戮があつたり……戦争になそね。そして現代ではすぐに行くべき方向すら分からな……。皆さんはどうなりですか？ もう少しで死なんならぬでしょ？ (笑) もう予約しとくと良いかも知れないと云ふ。(笑) この間、どうだったかな……。住職さんが棺桶をぬ、買って本堂に用意してありました。(笑) 自分の分に。(笑) 私はまだ買つてないんですけど……。皆もも一つ買わると良いかも知れない。(笑) あーこれだけはね、絶対使つんです。あ、変なもん買って使わなんぞ損しちゃつた……なんてことなんですね。これは絶対使ます。身丈今から伸びる人はいせじと田うんでね。体に合つたものを買つとくと良いからせんね。もう生まれた時に半分は入つてるんですから、もう一步こう入るだけですね。(笑) あるいは練習に中で毎日(大笑)寝てみるのも良いかも知れませんね。うーん、こんな気分か？ なんて言つてね。どうやって必ず終えていくの、いのちを



Preaching us,
Staying here right now

私たちでやつむこへやろお…。そのことを苦いみ…。あの田苦八苦で言葉じ存知ですか?・田の苦、八つの苦いで。田苦八苦するつていうの。あんまりいつも言葉も使わなくなつてきましたね。田苦入苦するつて。この田苦つてつうのはじ存知かな? 田の苦しみ。生老病死ですね。“生”ついでは生き、生まれるといふこと。生まれてきたそんじだな。なぜか分からぬうつてつうは非常に人間に苦しみを与えるんですね。老いてくことも。老いてくつうはだんだん出来てだしこが出来なくなつていくことです。見えてるもののが見えなくなるし、あうちも痛いし、いつも痛いしゅ…。仕事が増えるんですね。今日はあそこへ病院(免)今日はこちの病院で検査とつうように毎日病院に行かんなうんですね。それが病い。病いというものを抱えねばならぬ。そして必ず死んでいく。この死んでいくあたりは、老いてから死ぬとは限らない。妻婆の縁が尽きたら元氣であってもボックリいつてしまつともあります。だから死つていうものは生きたい者にとっては、生を奪う恐しいものですよ。だから本当に死ぬということはなかなか難しいんですね。そんな気合を入れて死ぬ訳じやないですか? 仏教というのは静かに死んでしまいますけれども、それでいくつことを田指したんです、はじめはお釋迦さんだよ。じつは静かにいのち終わる時に非常に静かにいのち終わつて満足して。



皆さんはどうですか? もういですか? 準備はあります。生まれてきて良かった。昔やまお先にいへ、さよならうへ(送つて)かかって、こう行けますか? お釋迦さんはそりよつはひとときおこしゃつた。この身体はもう、ちよつと古い木製の車輪がお壊れた。その…革ですね。繫いであってやつと繫て、ひるようなもんだと。私の身体はもう朽ちた。私はこの世を去る。昔よう教えを聞いてくれたなア…。最後にはこれで去るけれど、聞き残したことなどない? て言うんですね。お弟さん方は誰も言葉に出来なくてね、黙つてた。三回聞いたんだけれど誰も答えられなかつた。そこからお釋迦さんび、それがすべてのものは、めろいぢく。ずっと続くものなどいつもないんだぞ、皆、めろいぢくのだ。うかうかしなじでぬ、しっかりと仏法を尋ねていってくれ。こう言い残して息を引きとつた。その時に静かなる姿でぬ、禪定に入、だような静けさで第一禪、第二禪で外から見えたちやうんです。その静は心境がね。ところがね、私たちはそつはいかんですよ。死にじづがいって言います。この中に末期がいる方、生きたりと田つている限りは死は嫌なんだ。死にとうななかか難しいんですね。死にじづがいっておられますか? たまたまおられるんですけどね。そういう方は本当に死が直面してきて、死を受けるめなしに限り、潰れてしまうほど苦しむ訳です。だけどもよく考えてみると、まずは自分だけなんでこんなことになるんやろって思われる方が多いですけど、よく考え

みると皆死ぬのです。で、死ぬといつてが非常にびっくりするからだかと思つておりますけど、死ぬといつてはまだありませんことかくです。生まれたら死ぬんですね。ところが私たちのこの感覚器官がね、特にこの意識が死ぬといつのは異常なことやと困つておるんです。だから誰かが死んだっていう言報を受けるときは、「えー」と皆びっくりします。まさか、死ぬ。でも本当はね、死ぬとはいつ何時いろいろな縁で死ぬんだということがありまして。まあかっても、べからず候。驚くまではな、なんだ、人は縁によってこのちが終えていくものなんだ。こう言います。



「先、人や先」って言つてゐる。我や先って言う時には、別れたくない人達を置いて一人行くなう。人々先つて言つたう、死んでほしくない人に先立たれて、その悲しみを背負つて生きて行かんならん……。それが一一番目に来ます。そのう番目までが激しいので、五苦って言ひ方もあります。善導大師はね、五苦って言つてあります。次、六番目の苦しみと言つのは怨憎会苦で言つてゐる、会いたくな人に会わんならん。職場とかであります。家庭の中でもケガをするときを見たくなくなったりね。しませんか、時々、家を出ちやつたり。あくまでも心に模が入ると、蟠りにならぬ、ずっと苦しみますよ。よく、つらも怨憎会苦ですよ。最後に、七番目と八番目。七番を申し上げると、八番目に「求不得苦」といふものが挙げられます。求めるものが得られない苦しみ。これは若い時に好きな人が出来たりすると結構苦しみますね。振られちゃつたりする事ある。あるいは、いつも何か本当にどうしてやが出來ないかを願つているのになかなかそのことが成就出来ないといつのが苦しいですね。あるいは、苦しみがう逃がれたのに逃がれることができないのも苦しいです。ただつともう一つ、一つ求めるものが何だか分からぬ、

何を求めていいのか。求めるところと自体が得られない。いったい何を本当に求めたりのかが分からなければなりません。これがかなり大きな問題であります。これがあります。これでどう生きていらうですか？ どちらを向いてどう生きていらう、私達は満足した人生になるのか。それが分からぬ。とてさう、う中にさつき挙げた六根といつものですが、六根といつものによって私たちの身体を肉体的なものを、物質的なものと精神的なはたらきに分けて、色・受・想・行・識といいますけれど、これを5つ、精神的なはたらきも、この身そのものも、苦しみをもたらすつらやうんですね。これが一番目の「五蘊盛苦」です。生きている限り、苦しみを感じない訳はないかな。腹は減るし、眠くなるし、あるいは人間関係に苦しむ。現代は人間關係が一番大変ですね。ですから、私達の身そのものが私達がいつも引きずり回されていくような中にあって、本当に何を求めたらいつかが分からぬ。その都度、その都度のことは分かるんです。苦しいから逃がれたいですね。例えば3つの子が亡くなる。すると遺族はすぐ悲し、訳です。ところがそれをIPS細胞が出来てね、死ななくなるということは同じ病気になても、死んで死ななくなる



ことは出来んのです。でもその子が大きくなつて何をするか分からぬんですね。90歳までして死んでいました。3つで亡くなつたと、90で亡くなつたのと、どちらがいかって誰が言えるか。そうすると、その都度線上有誰か本当に幸せを得た人がいますかね？ その都度の喜びはもうもないですね。前にもちょっと紹介しましたけど、体中のコントロールが効かないくなる病気。「キルシストニア」と言ふ非常に珍しい病気だそうですが、ます右手から自分のコントロールが効かなくなつて、勝手に動くんですね。動かさうと思つとなお動く。それが今度左手にきて、その頭に元は体中に行くんじゃないから予想したさうですね。小学校の時にそうなつた。で、足にきて、でもうショックショックになって歩けない。最後に首にきて、がんがんこて首が勝手に動いてしまうので、寝るのも難しくなる。ところがその方が病気が発見されるまでに何年もかかるね、何と云う病気がが分からぬなくて、整体の先生のところに行ったり、漢方のところへ行つたり、新興宗教のところでお祈りしてもうつたり

ですね。その人はお寺の方ですかね。困るとどう、う
こそこまでします。でやいの病名が分かって世界的なお
医者さんがいると…。その手術が危険を伴なう。も
しかすると命を落とすかもしれない。でもやってみよ
うとしているになつて、やつた手術が脳の中に直接電
極をさしこんでね、電気を流すんですよ。そしてす
こと電気を流しておくんですね。で、それをやつたら、や
たとたんにちゃんと立てたんですね。大成功。それでその
方が言つていなんですね。お医者さんがね、奇跡だ
と言つたんですね。医者に奇跡的だって言つたうな
んだ!! それじゃあ危なかつたんだろ? うかって、もろすご
く複雑になつたとこうです。(笑) それぐらい激しく治つた
んですね。で、それまではね、友達が声を掛けてくれるんを
すつて。「お前は本当に頑張ってるよ」と。自分
があのよくな病気になつたときと耐えられなかつた。
前本当に頑張てるよって、声を掛けくれたそ。
で、相手が善意で言つてゐるのを分かつたから、返事
はしなかつたけど、心の中では「こちつだつて耐えられ
ないだ」と思つた。で、それから苦
しかつたんですね。そして電極入れてもう5年くらい
お会いしていなじで、私がお会いした時にひつ回目、3
年に一回ね、体の中に埋め込んでいた電池を体を切
て取り出してね、取り換えるんです。でも入れるん

ですね。他の病気の時には、寝て
る間は切つてあくこと出来るん
だそですが、キジシストニアの
場合は切つちゃうと寝ても首が
動きはじめるので、バッテリーの消
費が早じんだそうで、かなり短期
間で取り換えていかんなうん。で、そういう
一日を取り換えたあたりにお会いして話を聞いと
んです。そうじだらね、すんじく嬉しかつた。もうまわ
りの景色が変わつてみえて、と言つて。明るく光
の明るさが目に染まる程。ああーと。そして歩く。
歩くつづつ、歩くつづつ、歩いたのかつてね。すんじく嬉しかつ
て言つてます。だから人生が変わつて、もうじく嬉しかつ
たつて言つてました。ところが仮、三ヶ月もしないうちに
ね、だんだんあたりまえになつて、半年したら喜び
も消えてしまつた。あんまり苦しかったのに、又、あたりまえに
なつてものを見つける。で、そんなことがね、悲しいと
言つた。悔しくてね、自分の思った苦勞してきたこと
や、明るく見えた景色のことを書き残さうって言
つて、自分でね、本を書いたんですけどね。だから一つ
の苦しみを克服したとしても喜びはね、続かない
です。喜びが続かない。喜びつかうものが常にね、
これは涅槃經っていうお經を釋迦聖人が真



「……うとうとう引かれてるんですけど、私たちの得
る凡夫の得る樂は、『無常敗壞』である。こういう
言葉をですね、載せておられます。「凡夫の樂は無常
敗壞なり」という言葉をあげてます。私たちが喜
んだことがね、続かない。まあ私はお話しさは上手な
方ではないんで、あくまでももしれませんが、上手な人
の話を聞くと皆ね、「あーなんなんだぶつ」と言ひな
がら帰ってきますよ。それでもね、家に着いた頃には
はね……(笑)どつか行ってしまふんですね。どれだけ
喜んでみても消えていつてしまふんですね。だから私達
の「樂」っていうのは苦しみを持つてた経験がある
限り樂を感じるんですね。昔から田川が樂
の内容などですね。だから今はもう家庭の物は、
ほとんど機械がやってくれますね。洗濯でも、秋
田の「増田」という所に明治の頃に建てられた、
“家蔵”って言って、蔵の中に人が住んでいる所があ
るんですけど、そこは世界の商店街、その蔵
があまりにも素晴らしいので、今は、それを保存し
ていくことになさぬ、展示していくんですね。まあ今も
住んでる人がいる人が。そしたらあるお店が



あるので、それを売っているんですね。や
あく懐しかったですね。私が幼稚園
園とか小学校上がる頃には、まだ運
動ぐつが無かったんですね。無かったでしょ? 裸足か足
袋みだらなめで、うしろが革で補強してあるもの。覚
えてませんから? まさか私より若いなんて言わせいで
くだされど。(笑)買えでませんか? 足袋。足袋で走
つてね。でもあの足袋が履けるのは結構裕福な人
だったんですね。それがね、300円で売ってたんですね。つい買
つてね。あと足袋だけど、こんなのが開いても子供に見せても分
かるせいなんやろなって思って、やめてしまったけ
どね。それとか次に運動ぐつですね、廿日、甲のところに
名前を書くようにになってたんですね。どうでしょ? あ
れが売そたんですね。(笑)懐しかったですね。本当に
に懐しかった。そんなのはっかりあるんですね。あとは
も欲しかったですね。みんなの買えるのは……え
ご存知なですか? もう知らな? もうな
ままで。こうやって足で漕ぐブリキの自動車、子供のあれ
が、あって、その中に暮らしているんですけど、そこは世界
の商店街だったんですね。その商店街、その蔵
があまりにも素晴らしいので、今は、それを保存し
ていくことになさぬ、展示していくんですね。まあ今も
住んでる人がいる人が。そしたらあるお店が

「さあ、竿秤」とかね。うつてたらキリがないから。いっぽ
 あります。なんどそんな話してるのが…。(笑)だから
 その頃は本当に何も無かったんですね。蛍光灯も無
 かった。まだ電球に傘がかかって。その頃からすると
 今は便利ですね。ねえ、ボタン一つで乾いて洗濯物
 ができますし。うちにはまだ無いですか。皆さん
 の家にはそういうのがあるんでしょ? 洗濯機に
 ボンと入れて、洗剤がなんを入れて、ボタン押すと
 乾いて出てくるの。乾いて出て来ない? 出て来る
 でしょ。洗濯機の格好も違いますもん。うちの(笑)
 (笑)なんか、んな宇宙船の丸いのみたいな…。(笑)
 それから、お風呂もそうじよ。私は子供の頃、お
 風呂当番だったので、届いた薪をすくい細かくし
 て焚き付け作業焚いてて訳ですよ。だからそう
 いうことが全部機械がしてくれるようになつた。でもそれはそうじうことを
 知つて覚えてるうちは便利に
 うになつた。だからこそ、うつてくると、洗濯機のボタンを
 押すのも
 面倒臭いでしょ。(笑)そんなことないですか? 押
 しておいて又他の仕事をせんなり。うちのボタン
 も押してね。それでこつちやつてる間にピターン、ピタ
 ーン。おお、こっちかって言つてね。(笑)なんだから



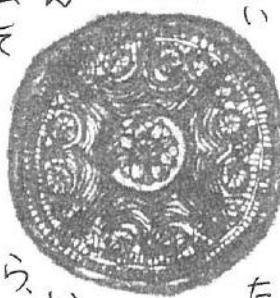
いですね。だから昔の苦労を知つてると、樂が分か
 る訳です。だから初めから車も電話も何でもあ
 る所に生まれて育つたら、樂じやないんですね。今
 40代くらいの方は、生まれた時から電話とか車とかがあ
 た時代ですね。電話とか車とかはあたりまえですね。
 無くなるて考えられぬ。私たちの頃は馬が歩いてまし
 た。(笑)馬や牛が歩きてね、舗装なんかしてなかたで
 すよ。そうすると轍が出来てね、それを長くぐで入る
 のが楽しかったです。学校行く途中も帰りもね。ギリ
 ギリのところまで水が入るかどうか…。むくの話や。(笑)
 だから「樂」の内容は結局苦なんですね。その苦しかった
 時代をやれてしまえば、樂でもなんでもない。あたりま
 えになつてきて、その心が起こすのが不足です。あたりま
 えになつた時には必ず不足が起る。もつと面白
 いものないかなって。小学校一年の時に東京す
 こピックがあって、その時にたいたいの人人がテレビを買
 つたんですよ。その頃のチャンネル数は3つです。NHK
 と教育と民放が1つ。それがかなり長い時間そ
 うでした。今はどうしていいか分からなくなっちゃ
 ルがあってね。どこを押したらいいか分からなくなってるね。
 そうするとね、私たちにとって樂といつのはね慣れて
 くると消えていく、そういう無常、続かない性質持
 つている。これ以上も、こもつて、やってる訳ですね。

だけども、もういつのでないですか、リニアモーターカーとか。りますか？一度は乗ってみたことがありますか？電気喰いとうございます。あれが出来たらどうなるかご存知ですか？もとて世の中忙しくなるんでしょ。まあそれに乗って今度来させてもらひうかもしませんけど。僕とにかく、無常っていうのは続かないことです。続くなれば続かな程、あらたに樂を求めるのが私達のあります。ですから樂があて転じて不足となり、更に又、樂を求めて歩んで来たのが人間の歴史です。人類の文化の歴史です。もう一つ、敗壞といふのは、喜んでいる最中にガタガタって崩れることがあるのが凡夫の樂だと。良い家が出来て喜んでおったが、津波にさらわれていくとか……。やこと結婚したと思ったら、事件や、事故でね、亡くなってしまったり。喜んでるまつ最中にその喜びが崩れることがあるのが、私達の求めてきた樂の内容だと。で、結局ですね。本当に言いたいことは、このこと一つなんですが、今日の講題っていうのはですね、「人間の救い」です。これは「人間の救い」ということと「私の救い」とは違うんだ。『人間の救い』を本当に考えることが出来るのは如来だけです。仏さまが人間のことを言う。『私の救い』ってのは、私の思いなんですね。田舎はどうにかしゃうと困ってるんですよ。

でも人間の救いって言つたら思ひでなくて、人間という身。人間という「存在」の抱えてる問題を示しています。ですから人間であるということが救われる、と
の仏教における根本問題なんです。心境などはもう当てにしてなんですね。心境はいろんな縁があれば、いろんな想いが起るものやと。怒りの縁にあれば、怒るようになつるんですよ。これは親鸞聖人が私達は宿業の身を生きてると。これが非常に決定的なんですね。今まで生きてきただけじゃなくてね。いろんなものを受けとめて身体の中に宿してあるんですね。地域の業、民族の業、時代の業。人間という業、男という業、女という業。そしてこの業の業を宿してくるんですね。だから宿してくるものが縁によって出てくるんですね。それを受けとめているのが、『私』という感覚です。悲しみもそうでしょ？ 自分の身内が亡くなるとものすごく激しい悲しみ襲って来ますけど、どこか遠くの誰かが死んでもね、ありますって言つだけでしょ？ そして「次のニースです」って言つたら、もう忘れてしまつ。で、それはね、業が違うからです。



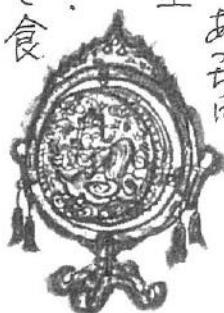
ながてこう言つたのである、「バカとよなくやー」と言つると、
「さうなんや、もうバカで困つたるや」と言う人がゐる。
それは抱えているものが違つてゐます。だから親鸞聖
人は歎異抄の中にね、おしゃってたとありますか。
そつうものを「もよおす」と。縁によつてもよおしてく
る。もよあしてきたら止められなんです。今もねエ、だ
いぶ時間が経つので少しもよおしてきてる人が……(笑)
我慢しながらトイレに行つてくださいね。もよおすって
いふことは止められないんです。私達には、だから悲し
みの心を私達の、私が起こしてりるなら止めとけば
いいんですよ。でも私達が起こしてるんじやない
んですね。縁によつて身が、身が悲しんどる
んですよ。身が悲しんどるのを感じ見て、私は悲しいって言つてゐるんです。だから悲しみは私
といづ意識よりも深いところから届いてくる
ですよ。身が悲しんでる。その身を見出されて
受けとめて呼びかけていく、それが私さまです。もう一つ
言ひ方を変えると、私といづものは、どうやつてみてもね、
救われたと思つても、又救われない状況に入ります。
喜べたと思っても、また喜べないことに出会います。
親鸞聖人は、この私といづものは、凡夫のこの私と
いうものは、死ぬ、臨終の一念にいたるまで、いろんな
心思がちりぢり交つてゐ、いろんな思いを起さすものや。
それが私達の身でありましまつて言つておうれます。



そうすると、私といづものを問題にしてたんだけれども、
本当はそつうではないで、いさんな思いをし、いさんなりの
ちを生き、そつう死にかたをするんです。ここに
に居る人は皆、死にかたが違つてますよ。うん。全
部書き付けておいてもうとね、後でね、ああ、その
3番目に座つた人は……(笑) こうやって七つなたや
なア、って。本当にこれは大事なんですよ。全部付けて
くと良いです、コレ。(笑) そうするとね、残つた人はね、
非常に深い感慨を持ちますよ。あの人はこうや
生きて、あん時笑つたけど、あと三日後に亡くな
った……(笑) 本当に人生は儻々なものやな……と
ね。でもそこからね、その人が生きていたのちを
終えつたんだな、ア、という感覺が初めて、どう
思うとか、どう思えたかな……といつことよりも深
い問題として私達に感ぜられる訳です。だから
う、はっきり言つとね、仏法は私たちに本当に聞け
なくなつてきてるんです。なぜかって言うと、人間主義。
人間を中心にしてものを考え、人間であることを喜
ぼうという人間主義、といづものが、近代以降、非常
に強いくです。ところがね、その人間主義といづもの
は、あらゆるものをお翻訳化し、対象化し、そして研究
し、対策を立て、そして解決していく、という信奉、
克復の思想ですが、その人間主義は人間そのも
のを問うことはどうして出来ないんです。人間を

問う時にはやっぱり人間というものを対象化し、客觀化して考へるしかない。だから人間をはじめから良いもんやと田淵はそして人間であることを喜びほうと田淵でいる限りはぬ、実は手の合わざるような喜びほうと田淵のうちを感じることはあります。むろん仏法とうのはちよと驚かれるかもしかんですけどね、人間をやめなさいって言つたるふです。それだけで止まると皆ギョッとするんですね、そして仏さまになります……。仏道って言うんです。人間道といつもの、人間といつ言葉は仏教語で「人間といつ迷」の姿を生きている存在」なのです。人間といつのは「迷」の姿と仏教では見ておられます。この考えが正しいか間違つてゐるかは歴史を見れば分かりますね。そして今日までの私達のやりようを見ればぬ止めるもなく、あちこちに向ひたり、こうちに向ひたりして一生懸命生きて來たけれども、知らなじ間で、この年になつたでしょ？

何して來たんですかねえ……。それで食べるだけは食べて（笑）來たんですよ。他人のことでないですよ、私がそうです。そうするとね、とうとう私といつ田淵といつものは、寒はもうどうにも手に負えないふです。はつきり申し上げるとね、本当にこの私といつものを感じてゐるものにとて、この私は手に負えないものはないくんです。それでなんとか



これが押さえつけてしまおうといふことが行きしきみだり、いろんな田淵想を学んだりしてくるんだけれど、本当に押さえきるものが出来ない。田淵によりも、松達の田淵よりも、いのちの方が深いから、田淵には押さえきれんのです……。ね。それならば、お任せするやうなことがあります、たまた。すべてお任せやつて。本当に任せられるかって言うと、任せられないんです。やっぱり仏さんよりも自分の方が確かやと思うてる……。（笑）そつぞしょ？ とても任せられない。どうされるか分からぬ、って言ってね。やっぱり自分の方が確かやと。だから押しても駄目なら、引いてみなみたいがもんだけけど、押しても駄目やし、引いても駄目やし、そのままでも駄目やし、本当に手に負えないとです。だけれども、その私、といつものをそういう人間といつ迷の身を生きている。ここにある一人一人は、人間といつのうちを生きておる一人一人……ですね。人間といつは悲しみやすく、傷つきやすく、孤独を抱え、虚しさを抱え、そして分かり合って生きたい、満足して生きたいと願つてやまない存在です。だから私達がぬ、一生懸命生きてもそのことが成就しない、その悲しみを本当に知つて、人間を迷の存在として見出していく。

おかげさへ

それもまたおまかせと受けとめて大切
な、おちやどと仏さまの方が私達を
拝んでる。私達が拝む時はね、ろくな
拝み方がないんです。つまらんしてほしくないア…(笑)
抜けんでしょう、なかなかそれが。真宗ではお願ひ事を
しては「けきをくちゅうてもね、や。ぱりこつお參りした
ら、ちよとは良いこと…」(笑)なりかなアーとかね。仏
さんの顔を見ると助けてくれるかなって。誰も?
できやれたら、「私です」とね。他の人はどうでもええ
んです。(笑)そつう私達の根性が抜けない。ねえお
任せなどとても出来ない。でも如来はかねて知り
めて、私たちが迷いの中に沈んで迷いの中で発想し
てじみこんどまた、分かったと言つても迷いの中、喜んだ
と言つても迷い。だから、どとの詰まり人間というも
のを当然にしなじむつらなんですね。実は人間を
当然でなしにならなくだと。ですから
人間の救い、ちやつことがありつるのは如来におい
てしかなんないです。人間の根本的な存在。救いとい
うのはどういうふうにしたら救われるかといふと、悲し
みや苦しみのある人の身をそのまま受けとめてくれる
世界があつたら、人間は救われるんですね。どんな状態
でも。何が出来なくとも。どうだけでいのち終わって
も。もっと言つてね、さつきまでさかんに聞いてた「私」



つづいていふものは生きた証が欲しいんだ。それもいろ
なげです。証を立てねば受けとめられないと云つた
いのちじゃなくて、そのままで今日まで迷つてきただ
とそのままだとおまかせ大切な、おちの相をやつだ
とそのままだとおまかせ大切な大切な相をやつだ。
そのままだとおまかせ大切な、おちの相をやつだ
に一人一人のいのちの終わり方をね、書いてあるとね、
だんだんそのことが感ぜられるようになります。仏さ
まはすべての衆生、いのちあるものの、いのちの相を
全部見て、ここに感動してね、本願を立てたと言わ
れてます。人間だけでないんです。いのち生きるものす
べてをね。すべてのいのちを迷いの存在として見て、そ
のうちの相を全部見て、そこには何か手を合わせずには
おれん嚴肅なものを見た。そこから本願が生まれた
んですね。ですから、私も証などといふことは考えなによ
うにならてきたんですね。おもしろどちらかと言うと、念仏
に南無阿弥陀仏とまでなって呼びかけてくるそなあ
こいつを尋ねていきたところ。自分の証などといふ
となどあまり考えないよつになつてきました。もつと言
うと私はもう生きた証などいふので、ベンと私
がたたいて殺した蚊の一生と同じく、が良いかはア
と(笑)そんな感じですね。そう、うつむきの平等性といふ…すべて同じな状況であ
ても、どんな自分であつても、それをそのまま
受けと申すといふは自分が申すので



はなべて、一切の衆生の苦惱を見つめてきた苦惱のすべての總体が南無阿弥陀仏となつてね、私達に届いています。だから私たちが念仏をするんだけれども、それは私達がするといつても念仏となつて呼びかけられてきた、その心地のまなざしの中に呼びかけられておったのは私であるたゞ自分をいただいていふです。人間が人間を立脚するのではなくて、如来によつて受けとめられてははじめてここに「それは私は私だ」といただいていく世界が開けるんだ。だから念仏の主を向こうにおいて、どうやつたらそれが分かることようかっていうのではないです。なんでも申しても、私達のものにならぬはしなじです。すべて人間を深く受けとめて呼びかけてきておるお念仏です。さて、最後には、その乃至一念とか乃至十念といふ言葉が本願文に出てきます。「乃至」乃至十念といふ言葉は十八願(※)に出てきます。で、この乃至といふ言葉がぬ、あのことは普通は途中を省略する言葉なんですが、一二三乃至十、乃至百って間を省略する言葉なんですが、親鸞聖人はこの乃至といつも非常に大事にされるんですね。「乃至のみ」とせ十念のみなどとえてちがつたまゐるなり」(「尊号真像銘文」聖典 P52)



乃至のみこと、乃至といつ御言葉を十念に添えて誓そあられる。この乃至といつ、何はどういつことか? それはまだですか。聖典の…今日は持て来てぱいですか? ありますか。もしお持ちでしたら P55 にですね、「乃至は」って書いてあります。お持ちでない方はよく聞けばお分かりになります。だいぶ意識も朦朧とされてきたかもしだせんが…。(笑) 親鸞聖人が「乃至」を説いてね、「乃至」といふはおきをも、すぐなきをもぬ、次山といつのもちよとも、それからひきこきをも…ひきしきて久遠とか久しい。で、ちかきをも、ちかうてぬ、すぐ近く。それからひきこきをも、のちをも。皆、かねておさむる言葉なり。ていう言葉をこの乃至の中に読んでうつしゃる。普通はこうは読めないです、これでは。だけど親鸞聖人はこの乃至といふのは、おおきをも、すぐばきをも久遠という久しきをも、そして近きをも少なくとも多くも。全部そろひうものを兼ね、先も後も全部兼ねおさむる言葉、それを乃至のみことって言う。それはここまで次山の人が、あるは仏さまが苦惱や悲しみの中にお念仏を申してきた。その久遠よりずっと一と畳ひてきた念仏が今、時を得て、そうであつた、念仏を申せと言つてゐるが、あつたと、乃至十念するいやで言つて。だから、ひょこり



自分で発起して念佛するんではなく、南無阿弥陀仏で申すと
のちに、ずっと久遠より（か）あかた願われ続け、待たれ
続けておいたそのへとが、時を得て、時を得て乃至
十念。私の上に届いてくださいた。これがお念佛です。
他宗では念佛を人間が使います。真宗では念佛
は使いません。ただ称名する中に称名とまで
なって届いてくださった、その深い本願の歴史を聞
き続けていく。その本願の歴史が深いのと、私達が
いただいているこの方が深いのが一緒なんです。です
から、日頃の私達が日常の中に、毎日毎日ね、だん
だんすべてのものを持てて埋没していくことがあります。
喜びも消えて、うぐひことも消えてね、悲しかったこと
も消えて、生きます。そしてね、忙しくなっていくんです。
忙しさの中に埋没していく私達に、帰れ、いのちへ
帰れと。今念佛申す身に帰れと。そのいのちは50年
100年むしろいつのちではない。久遠劫より願われ
続けてきた、おののちをいただいておるんやと。
それかね、念佛申すそのおののちが時を得て起
つた時に久遠劫から届いてきたお念佛の響きが、
私の上にも響き出たんですね。響き出た。響き
出たこちら側にもそういうものがね、宿してある訳です。
宿業としてあるんですね。ですから人間の救いという
ことですね、南無阿弥陀仏で申すと

ものは、人間によって成就することは出来ない。その
ことを通じて実は如来が人間の救いを本願として
成就してくださる。その本願の名が『南無阿弥陀
仏』です。ただ念佛して数を唱えればよいといつ
ことはなし、そぞろではなくて、念佛の謂を聞きな
さい。誰のためにどういうもののために、どんなもののため
に立てられた本願なのか。何を聞けと言っているのか。
そぞろをあ尋ねにならなければと田代ります。
それからお聖教のことばを日頃から親しみなさ
といふをまず」と言われます。真宗門徒は「聴聞」が
かたちです。聴聞。禪宗とかは座禅のかたちですが、
真宗には行がむ」と言われますけど型はあるんです。
生涯聴聞をしていくところが型です。その聴聞
の最初はね、分かっても分からぬくとも、お聖教に眼を
当てる、ことだ。正信偈からずっと行ってね、出来ればこう
いうお聖教(この場合は真宗聖典)を分かうなくても良
いからめくる、そして親しむんです。何遍も何遍もね。そ
うやって親しんでいく中で、これは一生懸命自分がう
んです。そうなるまで聴きなさいって言られます。念佛を
申せて言うたらね、「ただ念佛して弥陀にたすけま
らすべし」と、これは歎異抄の言葉だけれども親鸞
聖人に響いた言葉なんです。鄉音いた言葉はせんれう
せんれうです。解釈しているんじゃない。いろいろ聴いた

けど、それが響いて来たっていう。それが聞こえたって

※アレン・ネルソンさん(P.4)

いう意味です。だから聞いてるのは難いんです。よおーし聞いてやるって言つても響くかどうかは保証は無い。だけども用意がなければ絶対に響くんです。だからこの聖典の中は全部言葉です。

この言葉が、どの言葉もね、私達の苦惱を知った上に、その先輩がご苦労して聞き開いた。先輩が聞いたところをね、書いてください。さて、いるんです。だから出来れば、ずっとお聖教に親んで…。念仏するんじやむんじです。だから出来れるのが真宗門徒ではないに、もっと厳しく

言うとね、親鸞聖人のお言葉の一つでも本当に大事にして生きている人は、真宗門徒と言えまじよ。

その人は必ず念佛する筈です。ね、是非、聴聞といふことを生涯ね…。これは終わりがむんじです。じこまで聞いたら完成っちゃうのはなじぐです。どこまで深い…。そういうことで宣しくお願ひいたります。

(終り)



◎1947年7月30日、ニューヨーク・ブルックリン生まれ。

65年に18歳で海兵隊に志願入隊。翌年海兵隊員としてベトナム戦争に従軍。70年

1月に除隊するがPTSD(心的外傷後ストレス障害)に長く苦しむ。75年沖縄で起きた米海兵隊による少女暴行事件をきっかけに76年沖縄を訪れる。以来毎年市民グループの招きで来日。全国各地で自身の体験を語り続けられ、憲法九条を守る運動に尽力された。79年1月、多発性骨髄腫を発症。(ベトナム戦争で米軍が使用した枯葉剤に曝けた兵士に多発する病気) 89年3月25日家族に見守られながら命終される。生前、佐野先生と親行があった。

② ローレンソウさん、あなたは人を殺しましたか? (アレン・ネルソン)
「(本)講談社文庫)は多くの方に読んでいただけます。

※、十八願(P.23)…仏説無量寿經卷上(真宗聖典P.18)

○阿弥陀の四十八願の中の18番目の願。「たゞ我、仏を得て、十方衆生、心を至し信樂して我が國に生まれんと欲うて、乃至十念せん。もし生まれずは正覺を取らう。唯五逆と正法を誹謗せんとは除く。」親鸞聖人は第十八願を一番大切な願とお考えられている。

高徳寺報恩講法話

◆講師・佐野明弘先生

◆講題・『人間の救い』

(文責・高徳寺住職釋義祐)

二〇一二年十月十三日(土)



あとがき

今年より加賀の光闇坊（蓮如上人の四男さんの坊名がそのままお寺の名となつた）より佐野明弘先生による云講いただけるようになりました。今回は第一回目。真宗のお坊さんには珍しいスキンヘッドと独特な語り口で「人間の救い」という題でお話しされた訳ですが、一時間半という長時間にもかかわらず、満堂の聴衆はその内容に釘づけとなりました。残念ながら都合つかなかつた方々にも味わっていただきたく、別冊でお伝えさせていただこうと思います。文中の先生の口調は、当日のお話しお雰囲気をお伝えするため、あえて忠実に記させていただきました。読みづらい字で申し訳ありませんが、是非リラックスして最後まで味わっていただきたいと思っております。

釋義祐

合掌

発行日 2013.3.20

〒164-0002

東京都中野区

上高田1-2-9

発 行 真宗大谷派高徳寺

☎ 03-3368-6947

編 集 住職 新井義雄

FAX 03-3362-8019

ホーページ <http://www.kautokuji.or.jp>